

一 問一 家計に負担をかけられるのは迷惑だと疎ましく思う気持ち。

問二 「生活」は、切実で理不尽な現実そのものであり、うんざりしているが、「ライフ」は引越す前の生活のような好きなものに囲まれた理想の生活であり、それを切に願う気持ち。

問三 家出をして、かつての暮らしを思い出させる「海」を仲間と見に行くことは、うんざりする現実から逃げ出せる冒険であったはずなのに、陽が落ちるとともに、逃げ出したはずの家に帰らなければならず、何も変わらない現実がそこに見出されたということ。

問四 「海」に行くことを通して、どうにもならない現実から抜け出し、一步を踏み出せたことで興奮し、自らの手で未来を変えていこうとする勇気を得られたことを喜んでいるから。

二

問一 1 要求 2 定刻 3 済(む) 4 宣伝

問二 効率的な仕組みのない不自由さや、人とのかわりの中での感情の揺れ動きが大きくなる生活。

問三 人とのかわりや突発的なできごととに翻弄されるなかで感情の揺れ動きの大きいエチオピアの生活との落差が大きかったため、本来慣れ親しんでいる祖国の、人とのかわりが薄く、感情が抑制されている仕組みに改めて気づき、衝撃を受けているということ。

問四 エチオピアでは、生活の中で、人とのかわりをおして強い喜怒哀楽を感じていたが、日本では人との心の交流を欠いた、反射的で抑制された笑いであると感じたから。